

古生植物に就いての所感

理學博士 三 木 茂

恩師郡場博士と和歌山縣西牟婁郡粟柄川に *Palaeodictyon* の化石を採集の際土地の有力者より先生に揮毫を頼まる。先生は即座に墨痕鮮かに「化石は自然の歴史なり」と書かれたことを記憶して居る。實に古生物は自然の歴史の主入公の役割をなす。従つて Scott 氏等が1912年南極探險の歸途 Beardmore 氷河にて採集せる *Glossopteris* (古生代の種子羊齒) を悪天候と戦ひ苦難の末、遂に全員斃れたるも最後まで重い化石を離さざりしは有名なる話なり。

1927年(昭和十年)當時の滿洲國にて松花江の淺瀬をなくせんとして先ず三姓(牡丹江の松花江への合流点)附近の淺瀬を浚渫せり。其の節 oil shale と石炭を得、之を滿鐵にて調査せるに oil shale の油は15%あり撫順の oil shale の油が5%なるに比しては有望に考へらる。相伴ふ石炭は船より落下したるもの、如く想像さるゝも琥珀を混在す。此の附近に使用せる石炭は中生代の鶴岡炭にして琥珀なく又 oil shale には *Comptoniophyllum* の植物化石あり、其の後 Bohling の結果は *Sequoia* を多産せり、oil shale の油は豫期に反し2%に過ぎざりしも炭層は23—25mの厚層なるを知れり。かく全く露頭のなき地帯に琥珀、*Comptoniophyllum*、及び *Sequoia* の植物化石より少なからざる第三紀の石炭が地下に存在することを確定せり(當時の事業にたずさはりたる北岡、原口兩技師談)

部分として出現し、且外形等も少なからず變化して居るのが古生物の通性であるから其の檢定には比較的殘存し易き部分に就き日頃現世のものに注意し比較研究するの外なし。殘存せる部分の凡てが遺體研究に役立つものにあらず。物により、なし易き部分と然らざる部分あり、前者を發見するの要あるはあたかも爆撃せられたる燒跡に散亂せる様々の部分より當時の家屋の性質、名稱、所屬等を知るに等し、即ち煉瓦、敷石等によりては家屋の性質の一部は知らるも更に名稱所屬を知るには文字入りの器物を多數に得て初めて之をよくす。植物遺體の内、莖葉は稍々煉瓦、敷石に等しく種子及び果實は種の特性を表示し、文字の入りたる器物にも比すべきものなり。かゝるものを採集するには相當の努力を必要とす。

かくして決定せられたる種は其の時代に於ける或る小枝に當る。其の小枝が今尙伸びつゝありや既に成長を休止せるやは現今のものと比較し初めて之をよくす。現世植物のみにては今將に枯死に瀕しつゝある小枝が將又新たに伸びつゝある枝なるやは遺體の連絡を介して初めてよくせらるゝものなり。遺體はかく過去と現在とを結ぶ上に大切なる研究資料たるのみならず尙其の地に於けるフロアの變遷並に其の地に於ける地形、氣候の變化を知る上に欠くべからざる資料なり。

かゝる資料は土採場、土木工事場、浸蝕せられつゝある海岸又は河岸にて得らるゝものなり。過去に生育せるものゝ内遺體となるものは至つて稀にして又出現の機會も稀なることなれば多くの人々の注意を拂はざる時はあたら貴重なる資料も暗に葬らる。幸ひ兵庫縣には明石の海岸のみならず甲山の周邊、淡路の所々並に白川附近には全國にても稀にみる植物化石産地あり。願くば一層大いに注意せられ東亞の過去と未來に對し考察し得る之等の貴重なる自然の材料の發見と保存に盡力せられんことを切に願ふものなり。(昭和二十三年十二月三十日)